


不可能だと思っていた配車表をデジタル化。 案件情報の入力だけで、複数帳票の発行が可能に。

富山県にある、明治30年創業の荻布倉庫株式会社。90名近くの従業員を擁する社内の唯一のIT技術者として、社内DX化を推進する立場の宮内様に、LogiXを導入した背景や、導入後の体感について、お伺いしました。



 荻布倉庫株式会社

社員数：86名（パート従業員含む）
保有車両：24台
営業所数：2営業所
主要な荷物：建材・紙・セメント・樹脂原料など

課題



- 頻繁な転記作業による業務の非効率性
- 属人化した業務が多く、社員の定年や人の入れ替わりに際した引き継ぎの難しさ

効果

- 案件登録情報から必要に応じたフォーマット（配車表・配車指示書・車番連絡票）での出力が容易にでき、事務担当者の業務効率化を実現
- LogiXの活用で業務の標準化が自然となされ、ブラックボックス化していた業務が自然と可視化

ITベンダーでは断念した配車表のデジタル化を実現

—どのような場面で、LogiXをご活用いただいていますか？また、導入いただくことになったきっかけはどのようなものだったのでしょうか？

活用方法は主に、案件登録から配車表の作成と、それにまつわる事務処理です。導入のきっかけは、運送の担当者がいつも遅くまで残っているのがどうしてなのだろう？と業務プロセスを疑問視したところからです。

導入以前は配車予定メモを手書きで作成し、印刷したカレンダーに追記し、最終的にExcelで配車表を作っていました。同じ情報を何度も入力していたのです。また、受注した案件をそれぞれのステークホルダー（荷主・ドライバー・備車先）が求める帳票に変換して発行する必要があるのですが、同じ情報を何度も入力する二重・三重の入力コストがかかっていました。加えて、月次報告書では上記で作成していたデータが連動して活かされることがまったくなく、また0から作成している状態でした。弊社はこの状態を改善すべきと認識できず、業務がまわるから問題

ないと判断していました。

—運行管理業務を効率化する上で、他の製品を試したことはなかったのでしょうか？

ありませんでした。弊社は、約半世紀ほど業務手順を何も変えていない業務が多く、最近になって勤怠管理など、紙とハンコからデジタル化することができましたが、業務に関わる面にはなかなか手を入れづらくて。一度、運送管理業務のデジタル化をできないかと、ITベンダーに相談をしたことがありましたが、要件定義の段階で話がまとまらず、



「運送業務をデジタルにするのは無理なんだ」と、立ち消えになってしまっていました。

あと、運送会社の現場は対応力が高い人が多いんです。非効率な方法でも工夫して対処したり、突発的なことでも柔軟にカバーしながら業務をまわせる人物が多い業界だと思います。

弊社もそうで、今業務がまわるなら、あえて別製品を試す必要はないと思うようになっていました。

——LogiXを知ったきっかけは、どのようなものだったのでしょうか？

弊社も加盟している、全日本トラック協会青年部会の代表幹事（北陸信越ブロック）の紹介でした。

私はITエンジニアとして、社内のDX化を担当する人間なのですが、アセンドの日下社長と話をし、「DXというものに対する考え方が的を射て、筋が通っているな」と感じました。その想いと理論から、停滞している弊社のマインドを変革させて同じ方向を向いて改善を行うパートナーになれると感じたことが、試験導入を試みようと思ったきっかけでした。

定年間近の社員からも、「使いやすい」と好評 経営数字が社員の関心事に

——導入してみて、どんな変化がありましたか？

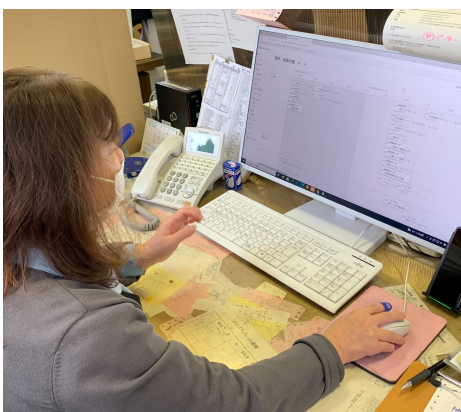
運送の担当者は業務効率化の実現により、毎日30分早く帰れるようになったと喜んでおります。配車業務に関しては顕著で、ドライバーや車両の予定が書かれた紙を見ながら別の紙を使って配送ルートを組み立て、Excelに起こしていたやり方が一新しました。ドライバーと車両の予定が視覚化されている配車画面を見ながらLogiX上で配車計画が組み立てられ、複数案件の入力も楽になり、配車にかかる手間が明らかに軽くなったと。また、自分の入力した情報がそのまま経営分析につながるの、業務が面白くなったとの声も上がっています。

不思議なもので、自分の仕事の先が見えると、どんどん改善意見が出てくるんですね。短縮した時間以上の効果が、社内の状態変化では見られています。たとえば、弊社の給料体系は歩合制ではないので、ドライバーが案件ごとの数字を把握することにメリットはないのですが、LogiXの導入後は「俺って、

何キロ走って、どんな売上になったの？」と、担当者に聞く場面を目撃することがありました。

——それは大きな変化ですね。LogiXは、社内で何名くらいの方にご活用いただいているのでしょうか。

現在は、配車担当と事務担当と私の3名ですが、さらに2名ほど追加する予定です。定年が近い事務担当の補充人員と、配車担当の増員です。配車担当の負荷が高かったの



ですが、LogiXの導入により業務が標準化され、同時作業が可能になりました。本件の関係者で一番若いのは40歳の私ですが、50代後半の者も問題なく活用していますよ。

低コストで標準的な運送管理業務のデジタル化をしたい企業にこそ勧めたい

——新しいシステムを導入するにあたって、反対意見などはなかったのでしょうか？

もちろんありましたね。配車や事務担当からの他に現場のドライバーからも声があがりました。一番多かったのは、慣れ親しんだ帳票のレイアウト変更には強い抵抗があるという意見。「これまでこれでやってきていて、これが一番いいんだ」という固定観念があったのだと思います。**そんな中で、現場が求めていた意見を実装して頂き、実際に帳票を見せて「文字がちゃんと大きい」、「これならグラフが確かに見やすい」などの「自分の意見が通って改善を実感する」サイクルに巻き込むことで、受け入れて貰えたと思っています。**弊社は高齢な働き手が多いので、先程の文字の大きさや画面の見やすさはとても大事。LogiXの導入検証期間終了後に社内で業務効率化の効果測定を行いました。案件登録・運行管理の機能分だけで明確な時

間短縮を確認。更に業務意識向上につながった状況から、効率化の有用なツールであると判断し、請求や分析業務にも対応させていく予定です。

——他の運送会社さんにLogiXを勧めるとしたら、どんな会社に勧められますか？

今から運送業を始める会社には、ぜひおすすめしたいです。**予算を抑えて、導入がしやすく、運送会社として一通りの標準的な業務がカバーできる機能を揃えているから、**これから業務を組み立てる会社さんには特におすすめです。40台くらいトラックの保有台数があれば、価値は十分に感じられると思います。

LogiXの導入で、業務の属人化問題も解消

また、LogiXはOS標準のブラウザだけで完結するSaaSツールなので、何か別のツールを使って独特の業務を行っている等の仕事の属人化を避けられる副次的な効能もあります。「誰かの業務がブラックボックスになってしまっている」と感じている会社は、導入をおススメできます。特別な起動方法も操作方法もなく、ブラウザを起動して操作方法を覚えるだけなので、どのような年齢層にも引き継ぎが容易です。弊社でも、来年定年の者がLogiXを活用して配車業務をしていますが、引き継ぎ予定の社員も一緒に使用し、習熟していく予定です。

——最後に、LogiX（およびアセンド）に今後期待することについて教えてください。

運送業界を引っ張っていく存在になって欲しいと思っています。デジタコ連携や、スマホGPS連携等を早期に実現して頂き、より入力作業をなくした業務の実現、現場データの自動連携を期待しています。今までの開発において、弊社は「あれも、これも」と要望を工期の考慮なく挙げましたが、アセンドのプロダクトマネージャーは進むべき道筋をまとめる能力が高く、物腰柔らかく優しくもロジカルに優先順位を決め、実現に向けての道筋を見せてくれるのでとても信頼しています。アセンドという会社は何事も「やらない理由」ではなく「やる理由」を考えて下さる会社なので、企業としてのやる気を感じ、頼もしい存在です。荻布倉庫も一層改善意識を高め、ともに挑戦、成長していきたいと思っています。